

事後評価対象 環境整備事業概要

平成20年12月16日
河 川 部

中部地方整備局管内 環境整備事業



事後評価対象環境整備事業一覧表

事業名	事業進捗状況	社会経済情勢	費用対効果 B / C	再評価理由 (事業着手)	対応方針 (原案)
菊川	平成11年度～平成15年度（完了） 「川の一里塚」整備（9箇所） ・階段護岸整備 ・親水護岸整備 ・公園基盤整備 ・法面緑化、河道整備等 「サイクリングロード」整備 （7箇所） ※進捗状況100%	菊川は、これまでも地域の生活に深く根付いており、伝統的な行事や河川に親しむためのイベントも行われてきています。本事業では、地域の方々の要望も踏まえ菊川沿川に拠点として「川の一里塚」、それを結ぶネットワークとして「サイクリングロード」を整備しました。その結果、菊川管内の河川空間の年間利用者数は、整備前（平成9年度）は約6万人に対し整備後（平成18年度）は約24万人と大幅に増加しました。（河川空間利用実態調査）	1. 3	事業完了後、一定期間（5年）が経過している事業	完了

平成20年度 完了箇所 河川環境整備事業の評価書

事業名	菊川（河川環境整備事業）		
河川名・水系名	菊川	事業主体	浜松河川国道事務所
所在地	静岡県掛川市同所地先～静岡県菊川市潮海寺地先		
工事着手	平成11年	用地着手	－
事後評価実施理由	事業完了後、一定期間（5年）が経過している事業		
実施内容	階段護岸整備、親水護岸整備、公園基盤整備、サイクリングロード等		
全体事業費	約20億円		
事業の目的	菊川水系環境管理基本計画に基づき、菊川沿川の環境整備を通じて、地域住民の憩いや潤いのある生活の向上を図る。サイクリングロードや沿川住民の身近なレクリエーション施設、良好な自然環境に親しむ場を整備する。		
事後評価の概要	<p>1. 事業の効果</p> <p>①事業実施の発現状況（費用対効果分析の算定基礎となった要因） 菊川沿川に拠点として「川の一里塚」、それを結ぶネットワークとして「サイクリングロード」を整備した結果、河川の利用者数が約6万人から約24万人と大幅に増加しました。事業完成5年後の費用便益比はCVM手法により算定した結果1.3となり事業の経済的妥当性を確認しています。</p> <p>事業費：約20億円 当初予定通り 事業期間：平成11年度～平成15年度 5ヶ年 当初予定通り 費用便益比：総便益(38.3億円)／事業費(26.6億円)＋維持費(2.9億円)＝1.3</p> <p>②事業実施による環境の変化 自然環境の変化は特に認められません。</p> <p>③社会経済状況の変化 事業実施後の菊川の年間利用者は整備前の約4倍に増えています。 ボランティア活動による周辺の清掃活動を通じて、河川に対する住民の意識や関心が高まっており、利用者へのアンケート調査の結果でも利用者の満足度は高く、今後もこれまでと同様の利用者数が期待できます。</p> <p>2. 対応方針</p> <p>①今後の事業評価の必要性 事業の効果の発現状況等から、再度の事後評価の必要性はないと考えます。</p> <p>②改善措置の必要性 事業の効果の発現状況等から、改善措置の必要性はないと考えますが、今後も利用者等の意見などを把握し、必要に応じて市と協力して対応していきます。</p> <p>③同種事業の計画・調査のあり方及び事業評価手法の見直しの必要性 当該事業の事業評価手法は妥当と考え、現時点での見直しの必要性は無いと考えます。ただし費用便益比（B／C）を算出する手法については、今後さらに改善に向けて研究していきます。</p>		